

あなうさピーターのはなし

ピアトリクス・ポター

目次

あなうさピーターのはなし	4	グロスターのふくやさん
おねずみおばさんのはなし	5	ごくあくウサギのものがたり
きたりすナトキンのはなし	6	解説など
きつねめさんのはなし	9	
	14	
	13	
	11	

あなうさピーターのはなし

「ひつてらつしゃい、きをつけるのよ。おかあさん、るすにしてるがら。」

むかしむかし あるところに 4ひきの いっとうさきが おりました。 なまえは それぞれ フロップシー、モプシー、カトンテル、ピーターです。

4ひきは おかあさんと いつしょに とってもおおきな モミのきの したにある あなたのなかに すんでいました。

あるひの あき、あなうさママが いいました。

「さあ おまえたち、のはらのなかや こみちのさきで あそんでらつしゃい。 でも、マグレガーオジさんの お にわには いつちやダメよ。 むかし おとうさんが そこで ひょんなことから マグレガーオバさんに つかまつて パイに されたんだから。」

※Web再録など初出を書いておきたいときにはこの書式をどうぞ
初出 一〇一五年一〇月五日

それから あなうさママは かごと かさをして にもつて、もりの むこうの パンやさんへ むかいました。 かつたのは 1きんの くろパンと ぶどうパンを 5つです。

おねずみおばさんのはなし

おねずみおばさんは、どをこえたきれいいすきのねずみさんで、いつだつてやわらかなつちのゆかをはきそうじちらはらい。

おねずみおばさんは、もつてているちりとりをうちならすのです。
「しつ！しつ！」ぱつちいあしあしきんめ！」とおねずみおばさんは、もつてているちりとりをうちならすのです。

おねずみおばさんとおねずみトマシーナおばさんといいました。

これがおもしろいおうちなんです！いけがきのねつこをめぐつてあつちこつちへつちのめいろができるがつていて、そのさきにものおきやらきのみやたねをたくわえておくくらがそれぞれあつたりしまして。

またあるひはちいさなおばあさんがみずたまもようのあかいケープをはおつてうろちょろしておりました。

「おたくがいまもえてるんですって、ななほしおばさま！おこさんのいるおうちへとんでおかえりになつて！」

だいどころやいまもありますし、それからしょつきべややたべものおきばまで。

あとおねずみおばさんのおやすみするへやもありまして、そこではねむるベッドがちいさなはこになつているんです！

もりの そとへ でて、 みずうみの ほどりへと むかい
ました。

やたりすナトキンのはなし

これは おはなしです——つまりは きたりすの しつば
のはなしで、 そのこの なまえは ナトキンと いいま
した。

チンクルベリという おにいさんと おおぜいの いとこ
がいて、 みんなして みずうみの ほどりにある 1ぽん
の きに すんでいました。

そのみずうみの まんなかには しまが あつて、 もり
と どんぐりの やぶに おおわれて、 1ぽんの がらん
どうになつた ナラのきが ありました。 そこは しま
の ぬしである ブラウンという ふくろうの おうちでし
た。

しまの ぬし ブラウンへの てみやげとして 3びきの
ぶくぶくとした ねずみも つれていって、 とぐちの ところへ さしだしました。
それから チンクルベリと りすいちどうは いつせいに
ふかぶかと おじぎを して、 ていねいな ことばづかい
で、
「しまの ぬし ブラウンさま、 どうか このしまの ど
んぐりを とること おゆるし ねがえませんか?」

あるとしの あきは きのみも たわわ、 ハシバミの
やぶでも はつぱが きいろに みどり —— ナトキンと
チンクルベリは おおぜいの こどもりすと いつしょに

ところが ナトキンの たいどは めに あまるほど な
まいきで、 あかい サクランボみたいに ふらふらと う

「きながら こんなことを うたうのです。

「なぞなぞ なぞなぞ といてみろ！」

あかい ふく きた ちびっこが

てには ぼうきれ のどには こいし、

このなぞ とけたら おだちんやるが。」

とはいえる このなぞなぞは むかしながらの ものなの

で、 しまぬしさまも ナトキンを ことん むししまし

た。

かたく めを つむると ぐつすり すやすや。

ヒツチピツチが カみつくぞ！」

ヒツチピツチに さわったら

しまぬしさまは やにわに めを あけると、 もぐらを

かかえて おうちの なかへ はいつてしましました。

りすたちは ちいきな ふくろ いつぱいに どんぐりを
つめ、 ひが くれると いかだを こいで おうちへ か
えりました。

ナトキンの めのまえで とびらが しまり、 やがて
まきを もやす こい けむりが ほつそりと きの てつ
ぺんから ふきだしてきました。 そこで ナトキンは か
ぎあなから なかを のぞいて またしても うたいます。
「おうちは いつぱい、 あなも いつぱい！

だから おわん 1ぱいぶんも あつまらない！」

「ブラウンさま、 どうか もっと どんぐりを とる！」

と、 おおめにみて いただけませんか？」

ところが ナトキンは ぶれいせんばん ぴよこぴよこ
あたりを うじきまわって、 しまぬしさまを イラクサで
ちくりと さし、 うたを うたうのです。

「ブーの じじい、 なぞなぞ とけよ！

ヒツチピツチが かべのなか

ヒツチピツチは カベのそと

ヒツチピツチに さわったら

しまぬしさまは やにわに めを あけると、 もぐらを

かかえて おうちの なかへ はいつてしましました。

けれども あくるひの あさ ふくろうの しまに もう
いちど みんなで むかいました。 チンクルベリたちは
1ぴきの まるまる ふとつた もぐらを もつていて、
しまぬしさまの とぐちまえにある いしの うえへと の
せて、 いいました。

りすたちは しまじゅうで どんぐりを さがし、 ちい
さな ふくろを いっぱいに しました。
けれども ナトキンは きいろや あかの むしいるを
ひろいあつめて、 ブナの きりかぶに すわって たまあ
そびを しながら しまぬしさまの おうちの とびらを
じっと みはるのです。

初出
二〇一五年一〇月五日

きつねめさんのはなし

冬や 春先、見かけるのは たいてい 土のなか、おうし土手のてっぺん 岩場のところ、つまり むぎむぎいわおの ふもと。

そもそも 6つ おうちが あるわけですが、家にいることは あまりなく。

わたくし これまでたくさん 本を 書いてきましたが、おぎょうぎのいい みなさんのお話ばかり。ですからたまには いけすかない おふたりさんの ものがたりを しようと 思います。お名前は、あなぐまトミーと きつねめさん。

きつねめさんを だれも「すてき」と ほめません。ウサギたちの きらわれものです。おかげで 1キロくらいはなれていても においが わかるくらい。いつも きつねひげで あたりを うろつく、 行く先なんて だれにもさっぱり。

あなぐまトミー、こいつは ずんぐり ごわごわ よたよた にやにや。いつも まんめんの えみ。あまりすてきな くせとは いえません。ハチのすや カエルミニーズを 食べて、月あかりのもと あたりを うろついでは ものを ほりだします。

ある日の すまいは ぞうき林の えだごや、 そのせいで ぴょんぴょんベンジャミンじいさんの 家ぞくは びくびくもの。つぎの日には みずうみのほとり ずんぎりやなぎに お引っ越し、 マガモも ビーバーも ぶるぶるも

といふで この あなぐまトミー、 たまに ウサギパイの。

を 食べるのです。とはいえ ほんの 子ウサギのものを
たまにだけで、ほんとに 食べものが ほかに ないと
きだけ。ぴょんぴょんじいさんは 気が合うみたいで、
ふたりとも いじわるカワウソや きつねめさんが きらい
なのだとか。えんえん わる口を 言い合うことも し
ばしば。

ぴょんぴょんじいさんは もう だいぶ おとし。穴を
出たところ えりまきまいて 春の日なたぼっこ。ウサギ
たぼっこを パイプで ふかしていました。

初出 二〇一五年一〇月五日

グロスターのふくやさん

つるぎと カツラが まだ あって、 コートの すそが
長くて、 花がらの ひらひらの ついていた むかし、
男の人も ひだや ふさの ついた きらびやかな きぬの
チョッキを きていた むかしのこと、 グロスターに ふ
くやさんが おりました。

その人は、 町の 西門に かまえた ちいさな お店の
まどぎわで、 さぎょう台の上に あぐらを かいて、 朝
から ばんまで すわっていました。
日の あるうちは、 ずっと ぬつたり 切つたり、 い
ろんな ぬのの 生地を ぬいあわせて おりまして。 サテ
ン、 ポンパドゥール、 ラストリン、 生地にも それ
ぞれ かわった 名前が あつて、 どれも このお話の
おこつたころには、 とても ねうちの あるものでした。

ところが、 いよいよ おきやくさんには 上ものの き

ぬを ぬうのに、 そのひとは とても とても まずしくて
—— そのこがらな メガネおじいさんは、 やつれた顔、
まがつたゆび、 すりきれた 上下のふくと いうありさ
ま。

ぬいとりの ぬのに 合わせて、 むだなく ふくのか
たちを たち切りましたから、 さぎょう台の上に ちらか
るのは、 ほんの少しの 切れはしだけ —— 「はしきれ
すぎて、 どうにもならない —— ネズミの チョッキに
は なるくらいだ。」と ふくやさんは 言います。

クリスマスも 近づいた ある さむさも きびしい日、
ふくやさんは コートを作りはじめました —— パンジ
ーや バラの ししゅう入りの さくらんぼ色した うね
おりの きぬの コートと、 クリーム色した サテンの
チョッキ —— ゴーズと 緑の ウーステッドの シニヨ
ール糸で かざりつけられていて —— グロスターの
町長のための あつらえものです。
ふくやさんは はたらきづめで、 ひとりごと。 きぬを
すんぽう 取つて、 くるくる 回して、 大ばさみで か
たどおりに 切りととのえて いきました。 さぎょう台じゅ

うに、さくらんぼ色の切れはしがとつちらかります。
「あまりはなし、たち合わせもばつちり、それあまりはなしだ、あつてもネズミのかたかけ、小ものリボンができるだけ！できるだけ！」とグロスターのふくやさんは言いました。

初出 二〇一五年一〇月五日

ごくあくウサギのものがたり

「こちらは ごくあくウサギ。 ほら、 げひんな おひげ
に するどい つめ、 それに あの さかだつた しつ
ぽ。

「こちらは おつとりウサギ。 てには おかあさんから
もらつた ニンジンです。

わるウサギが ニンジンを ほしがりました。

解説など

タイトル部分を右クリックして「ファイル」→「更新」→「目次をすべて更新する」を選択して下さい。

本文のフォントには三番明朝（日本語）Times New Roman（英数字）を指定しています。
三番明朝のダウンロードは「」からかぎり。
<http://www.akenotsuki.com/eyeben/fonts/sammin.html>

本文のフォントには三番明朝（日本語）Times New Roman（英数字）を指定しています。

三番明朝のダウンロードは「」からかぎり。

章タイトルにはNoto Sans CJK JP Regularを指定しています。
ダウンロードは「」からかぎり。
<https://www.google.com/get/noto/#sans-jpan>

表紙、田次、奥付について
不要であれば削除して下さい。
田次について
田次は実際に章タイトル・本文を書き込んだあと、田次の章

表紙、田次、奥付について

不要であれば削除して下さい。

「初出」について
Web再録短編集など、初出の日付を記しておきたい場合のためのスタイルです。不要であれば削除して下さい。
フッターについて

目次は実際に章タイトル・本文を書き込んだあと、目次の章

「初出」について
Web再録短編集など、初出の日付を記しておきたい場合のためのスタイルです。不要であれば削除して下さい。

奇数ページにはページ数、偶数ページにはページ数と章タイトルが反映されるよう設定してあります。

ページ番号について

表紙…1

表紙裏…2

目次…3

目次裏…4

本文…5

となっています。5ページ目の

文章サンプルについて

青空文庫の「あなうきピーターのはなし」シリーズを使用させていただいています。

http://www.aozora.gr.jp/index_pages/person1505.html

あなうさピーターのはなし

発行日 201X年XX月XX日

著 者 著者名 (TwitterID @sample)

発行元 サークル名 <http://www.address.net/>

連絡先 sample@gmail.com

印 刷 印刷会社名

※この冊子は個人によるファンブックであり、実際の人物や作品、団体とは関係がありません。オークション等への転売は何卒ご遠慮下さい。